



JCLIFE

2024年
11月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:<http://www.facebook.com/isojcnw>

10月例会

10月16日(水)尾道国際ホテルにて、尾道の歴史や伝統、文化の研究をされ尾道新聞の嘱託記者として活躍されている林良司氏を講師にお招きし10月例会を開催しました。

講演では、時代を動かしてきた偉人たちにスポットを当て、現代の尾道の姿に至るまでの変容が語られました。

今では当たり前前に溶け込んでいる鉄道も、そのいきさつを知ると反対側・賛成側それぞれの市民の想いが垣間見え、両者の架け橋となったリーダーの姿に感銘を受けました。

そして続く鼎談では林先生、福本委員長、石岡委員が尾道JCIの先輩方が築き上げた尾道の魅力や文化の秘話に迫りました。

文学の小道、三体廻し、グルメサミットなど今現在でも残り、多くの人に親しまれ愛されている祭りやスポーツ。その事業を生み出した原動力は何だったのか。苦労話と共にそこに込められた熱意とワクワク感を共有することが出来ました。

まちの転換点で偉業を成し遂げてきた先人たちに負けないよう、我々も未来に向けて心一つにする例会となりました。

(記事：徳永雅之)



全国大会

日本青年会議所に所属する約1万5千人の会員が福岡に集結し全国大会が盛大に開催。尾道からも多くのメンバーが参加しました。

2024年度に日本JCIがデザインした笑顔溢れる未来を具現化して、メンバーや市民に体感して頂く事。そして未来に向けて笑顔を次年度へ継承するという思いのもと、「Smile for tomorrow」の大会スローガンを掲げて3日間開催された全国大会。

最後の全国大会となる予定者や他LOMメンバー、会員同士で楽しく酒を酌み交わし、同じ時間を共有して労をねぎらい、残る2024年度の活動に向けて英気を養いました。

多くのメンバーの笑顔が生まれた全国大会。開催に当たってご尽力いただきました皆様に心から感謝いたします。

(記事：森田洋一郎)



I♥ONOMICHI フェスタ

10月19日(土) 尾道駅前緑地帯にて「尾道の歴史を知り、まちの未来を一緒に考えよう」をテーマに、遊びながら、楽しみながら尾道の歴史を学べる事業、I♥ONOMICHIフェスタを開催しました。

子ども相撲では78人の子どもたちが土俵入り。ご家族や友達が見守る中、熱戦が繰り広げられ、勝利で笑顔になる子。悔し涙を流す子。一人一人の真剣さがひしひしと伝わってきました。

ステージイベントでは、子どもたちが日頃の練習成果を存分に発揮。オーディエンスを魅了し、会場を温めていました。

会場では、一宮神社青年部様と一般飛び入り参加OKの神輿が会場を練り歩き、「会場の熱量を大いに盛り上げてくださいました。その会場を美味しさで満たしてくれたのは、尾道のグルメが集結したグルメブース。多くの人で賑わい、尾道の味を楽しんでいました。

本事業にご出店、ご出演、並びにご協力をいただいた皆様、本当にありがとうございます。

また、あいにくの雨模様の中、ご来場いただいた皆様誠にありがとうございました。

尾道を大好きな人たちが集ったこの事業。皆さんの笑顔に支えられ開催することが出来ました。本当に感謝しかありません。

そして、過去から今に至る一人一人のまちに対する想いが尾道の魅力を作り出し、それが集まって、まちの未来を明るく照らしていくのだと改めて感じる一日となりました。



(記事：福本真也)

グルメサミット出店

10月26日(土)、27日(日) 第37回グルメ・海の印象派のおのみち「グルメサミットin尾道」に出店して参りました。

尾道青年会議所は、本年度仮入会員を中心に試行錯誤を重ね、尾道の特産品をふんだんに使ったインドネシアの絶品麺料理「尾道風ミーゴレン」を販売しました。

雨予報に不安が募りましたが、何とか天候にも恵まれ、多くの皆様が来場。2日間とも完売御礼となりました。ご来場いただいた皆様誠にありがとうございました。

仮入会員の皆様、2日間大変お疲れ様でした。これからも共に尾道のまちを盛り上げて参りましょう！

(記事：高橋諒佑)



しまなみ3J.C

10月25日(金)しまなみ3J.C引継ぎ会・懇親会をグリーンヒルホテル尾道にて開催しました。

しまなみ海道開通に合わせて今治青年会議所、因島青年会議所、尾道青年会議所の3LOMで結成されたしまなみ3J.C。

懇親会では、各LOMの2024年度のこれまでの事業報告・取り組みの紹介や、2025年度の事業計画・活動への想いを紹介、共有しました。

LOM毎で、様々な違いがあることが再認識でき、自分たちの活動の視野を広げるいい機会となりました。

地域活性化と人との交流を目指して、これからも更にしまなみ地域が盛り上がるよう共に励み切磋琢磨して参ります。

(記事：塚本義昭)



卒業生スピーチ



高垣 裕吉

皆さん、こんばんは。高垣裕吉と申します。

僕みたいな歴の短い人間が、あーだこうだと喋っても皆さんの心に響かないと思うので、ポイントだけ、自分の中で大事なところを皆さんに伝えさせてもらえればと思います。

仮入会の時は、正直すごく大人しかったです。猫をかぶつてとにかく静かに、誰にも目立たないように、それだけを心がけていました。ただ、当時山北先輩が直前理事長で、合同委員会のアフターの時に、山北先輩から突如いきなり言われたことが「お前、そんなキャラじゃないだろ。もつと自分を出せ。」皆さんも自分を隠していませんか？それではJ.C活動で自分を出せないまま終えてしまう。それこそ損なことではないと思いません。その言葉を聞いて、僕はすごく肩の荷が下りました。

続いて、未来ビジョン委員会、内海洋平委員長が率いる委員会に幹事として配属されました。とにかくアフターが長いというのが一番の印象で、基本的に帰るのは3時です。朝5時には起きて会社に行つて、支度してというような生活をしていました。その時に言われた言葉が二つあります。馬原美晴先輩という方にふと言われました。「お前みたいなものはどうせ、委員長も何もしないのじゃけ、平岡みたいななれ。」と。それがお前の生きる道だと馬原先輩から言われ、僕のJ.C活動向かうべき道、それが決まりました。「僕は平岡になるんだ」と。そういう想いで、いろんな場で盛り上げたり、ちよつと服脱いでみたりとか、いろいろやつて頑張っていました。

その翌年、まちの未来創造委員会。これは村上直弘先輩の委員会です。副委員長に加藤雄大君がいて、ここで、運命的な出会いがありました。僕のソウルメイ

ト松本裕太君との出会いです。この松本裕太君という男に会つて、僕は本当に変わりました。まず、飲み会に行つても楽しむだけ楽しんでそのまま寝て、何も言わずに朝起きて。その繰り返しをしていたら、このソウルメイトが「裕吉、それいけんで。ちゃんと先輩にうちそうさまでしたつていうのを、一言言わんといいけん」と。それを聞いて僕はハツとしました。どれだけ僕はダメなんだろうと。それから松本裕太君が言うように、送った文言を真似して、そのまま送るような生活が続きました。でも、やっぱりそれでも「うちそうさまでした。」と言ったら「また飲みに行こう。」と言われます。これは非常に大事なので、皆さん覚えておいてください。

そして、満を持して2023年度吉田理事長の下、私が委員長をさせていただきます。これが正直、自分の中で本当に1位になるくらい、人生のターニングポイントで、良い意味で変わったんじゃないかなと思う1年間でした。当初、委員会メンバーの島田元太先輩と話をして、「俺は平岡さんみたいになりたい」つて言ったら、「その必要はないじゃん。もう裕吉でキヤラが出来上がつとんじゃけーそのままで行け」と言ってもらいました。そして平岡さんに憧れるのをやめました。

皆さん、当然読まれていると思うんですけど、吉田理事長が掲げた所信。僕は組織活性化委員会という委員会だったので、その委員会に向けた文章があつて、「J.Cというのは生涯を共にできる友を作れる場所だ」という風に書かれていました。僕は正直、J.Cで行っている事業や例会は確かに身になるなと思うのですが、飲んで帰ったら忘れてしまいます。そんな中で忘れられないものがあります。それが友情です。いろいろな苦難を共にした仲間たちと傷をベロベロなめ合う。「何であんなにクソ怠いことをせんといけんのや」と傷をなめ合いました。特に松本君とはなめ合つて、現実逃避して本事業の前にパチンコ行こうといつて、パチンコ行つたところを当時専務だった山本恭平君に見つかると。そういう事もありました。でも恭平君の良いところは、そこで3人一緒に座つて打つんですね。あれはもう忘れられません。そんなこんなで委員長をさせてもらつていました。

そんな僕ですが、結局終わって見たら感謝の気持ちしか生まれませんでした。委員長をやっている時は、もっとみんな動いてほしいなとか、もっとやってくれたらいいのとか、そんなことばかり考えていました。でも僕が本事業1週間前に栄養失調、睡眠不足、ストレスで入院することになってしまいました。その時にまず第二に僕のバディの半田祐喜君に点滴している写真を送って、「ごめん、半田君。ちょっとしばらく出れんけ、あと頼んで良い？」と言ったら「任せとけ。」と言ってくれました。そんな仲間がおる委員会。とても幸せだと思いました。

そして僕が倒れた時に電話してきてくれた。松本裕太君、高垣悟君、そして山本恭平君。やっぱり正直、本当に弱っていたので、J.C.が怖くて怖くてしようがなかった時期に、そうやって、優しい言葉を掛けてくれたり、「じゃあ飯買って行っちゃろうか」と言ってくれたり。御調ですよ？僕が住んでいるところ。そんな僕にみんな優しい言葉を掛けてくれて、本当にJ.C.に入って良かったなと思います。

これが吉田理事長が所信に書いていた、「生涯を共できる友を作れる団体」なんだと。それがこの会なんだと、僕は本当に改めて思いました。

J.C.活動をしていく中で僕は委員長までしか経験がないですが、その中でやっぱり副理事長の岡本大輔君だったり、いろんな方にすごい迷惑を掛けて、粗中の粗の議案を投げつけて、それを理事会で通してもらおうというような事を、毎回毎回全部そういう風な感じでやって、それで何とか通してもらったのを、半田祐喜君にキレイに直してもらおうと、そういうことばかり繰り返してました。やっぱり次年度理事をされる方はしっかり議長書を組み立てて、キレイにして副理事長に届けるようにしてください。できないと副理事長は大変です。僕も1回ぐらい副理事長をやってみたかったです。

ど、もう卒業なんてやめておきます。そして、そんなこんなで僕の委員長人生が終わりました。終わった後に本当に感謝の気持ちしかなかったです。やつて良かったなと心から思いました。

そして今年の向井豪佑委員長の拡大研修委員会です。この委員会ですって言うことは、こんな卒業予定者なのに、ものすごく立ててくれて、ものすごく良くしてくれて、めちゃめちゃ気持ち良いです。それくらい向井委員長はしっかりしてるし、全員の気持ちも考えて行動できるし、偉そうに言ったらあれですけど、本当にあなたが可愛いんです。これからもゴルフ行ってください。明日エポンのマッスルバックが届きます。それを携えて一緒にゴルフ行きましょう。

以上が僕のJ.C.生活。5年間、早いうで、短いような。もうそろそろ終わりを迎えております。

勝手な親心で偉そうなことを言うのですが、小田康聖君と山本祐利奈君。僕の委員会の幹事でいてくれた2人が来年理事を受けます。それが正直、何よりも嬉しいですし、誰よりも応援しています。絶対に頑張ってください。

理事を経験すると、見えなかったものがいっぱい見えてくるようになって、まず人の名前が全員覚えられるようになります。僕はJ.C.入って、委員長するまでほとんどの人の名前を覚えていませんでした。でも、委員長する理事にならなると途端に、全員の名前を覚えられました。それぐらいやっぱり気合も入るし、やることも多いし、人に感謝することも多々あると思います。自分の力だけでは絶対にやり遂げられません。お二方、大変なことがあつたらまず委員会メンバーに相談する。そしてどうしてもダメだったら、もう他に本当に言うところがないかしたら僕に言ってください。そうすれば何かしらのヒントを与えられる自信はあります。

そして僕のマジバディ半田君、来年度副理事長を頑張ってください。そしてポトルがなくなったら僕を呼んでください。ポトルぐらいいは入れます。

以上をもちまして私の卒業生スピーチと代えさせていただきます。本日は忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。ごさいます。



皆さんこんばんは。私のJ.C.生活の中で感じたことを皆様にも少しでも伝えられたらと思いますので、最後までどうぞよろしくお願ひ致します。

まず、入会の経緯ですが、美ノ上先輩と家族間の交流がありまして、美ノ上先輩が「尾道J.C.という団体に入っているんだけど、興味ないか」と誘われまして。ただ、そのときは全く興味無かったので、「全く興味ありません」ということでお断りさせて頂きました。

その後も交流はあったのですが、数年後に、たまたま美ノ上先輩と新聞でお会いして、「どうしようるんな？、今何歳になつたん？」と言われて、「33歳になりまして」と答えたところ、「じゃあそろそろどいうこと？」と思つたのですが、「今度、他の方に連絡させる」という事で、その時はそれで終わりました。

そうしたら後日、中島君から連絡があり、後日会社に行きました。凄く簡単な気持ちで会社に行つたのですが、そこに麻生先輩と当時拡大委員長だった高升先輩がおられました。入った瞬間に「これちょっとやばいな」という感じだったので、よくある手口で、「月に2回だけ出たらいよいよ。それぐらいじゃけえ、とりあえずこれ書いて」ということで、仮入会申込書をその場ですぐ書きました。その場はなんなく終わり、仮入

会期間に初めて参加させてもらったのが夏期講習会後の総会でした。何も分からずに初めて参加したのですが、皆さんご存じのとおり、3分間スピーチがありました。私は人前で話すのがすごく苦手、「いきなり何喋ったら良いんじやう」と思いながら、なんと1分間程は喋つたのですが、その後の2分間は「えー」とか「あー」とか、「まだ3分経たないでしょうか？」と言いながらすつと過ごすという、何とも苦痛な修練を受けたのが第一印象です。その中で、同期に山本恭平君がいるのですが、この方もまさかの同じようなことをやられており、すごくほつとしたのが仮入会ときの印象です。

その後、1年目に小林委員長の下、拡大研修委員会の幹事として、山本恭平君と共に2人で幹事として配属されました。このときはまだ、優先順位が、仕事、家族、そして残った時間にJ.C.参加できたらいいなぐらいのスタンスでした。私もあまりやる気が無かつたのですが、もつとやる気の無い人間なのですが、山本恭平という人間なのですが、急に電話が掛かつてきて、「飯でも行こうか」ということで、2人でご飯に行きました。「何の話があるのかな」と思つたら、「俺もう辞めるマジ辞める。」ってこれしか言わなかつたです。私もそんなにやる気無いのに、相方に辞めるって言われて、どうしようかと思つて「待って待って、お前40歳で卒業なんだし、どうせだったら何かあるかもしれない。40歳まで我慢すれば終わるんだから、頑張ってみようや」と言つて、まさかの私が説得するといふね。その山本恭平くんも、来年度の理事長予定者です。同じ幹事であつた私としても、すごく誇らしく思います。ここに残る皆様、本当に山本恭平を男にしてやつてほしいと思うので、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

編集後記

今回は羽生結弦選手との勝負企画でしたね。彼は氷の上で観客を虜にし、数々の栄冠を手にしてきた日本が誇るフィギュアスケート界の王子様です。ちなみに僕もよく「笑顔が素敵！」とか「感情表現豊かだね！」って言われるんです。これぞ「表情のプリンス」！さて、いよいよ今年度も残りわずかとなりました。最後みんなで綺麗な着地を決められるようにラストスパート頑張ってください！

(記事： 狩野 聡汰)

HP  facebook 

この年は本当申し訳ないのですが、何もして
ないですね。ただ公開例会で岡田監督にお越し
頂いたのですが、当時それを見て、「J.C.ってすこ
い団体なんだな」って少し思ったのがこの年の印
象ですかね。

そして2年目、真の幸せを知る経営者育成
委員会、岡本大輔委員長の下に委員として配
属されたのですが、この年はコロナで、ほとんど
集まって活動ができなくて、みんなで思い出を
作るということができなかったのが、すごく寂し
かったなと思っています。ただ、一番最後のクリス
マス会だけは、すごく思い出に残っています。コ
ロナで集まらないという状況で、各家庭の子ど
もたちにプレゼントを届けに行く事になりました
。各家庭に行くと、子どもたちが本当にすこ
く喜んでくれて、「やっぱりクリスマス会って良い
な」ってその時に思ったことを覚えています。

その次の年ですが、総務広報委員会で小西委
員長の下に配属されたのですが、この年は私が
J.C.にやる気が出た年というか、やる気を出さ
せてくれた大本先輩に出会い、とにかく目に掛
けてくれて、何かある度に、いろんなところに誘っ
てくれたり、先輩や後輩とはこういう風に接し
たほうが良いというのを教えられて、「J.C.を
もうちょっと頑張ってみようかな」と思ったのが
この年です。皆さんもおそらくいると思うので
すが、J.C.生活をしている中で、誰かにすこく
声を掛けてもらったり、「この人のためだったら」
とかがあると思います。そのときには全力で頑
張ってほしいな、というのをすごく思います。

この年の思い出は、緊急事態宣言が明けたの
を狙って卒業旅行に行った事です。人混みを避
けるためにキャンピングカーで福岡まで行くこ
うということで、小川先輩のところにキャンピング
カーを借りに行きました。小川先輩が「キャン
ピングカーで行かないといけないの？行くんだっ
たらうちのハイエースで行ったほうが良いよ」と
いうことだったので、無理やりキャンピング
カーで行くぞというのをゴリ押ししました。福
岡まで行くので、朝の5時半か6時ぐらいに新

尾道駅に集合し、私が最初運転したんですが、
高速道路に入って、ベタ踏みしても40キロしか
出ないんですよ。これだと、どうやっても到着し
ないなということ、私の自己判断で三原久井
のインターで降りました。そして新尾道駅まで
帰ってきて、まさかの新幹線で福岡に行く形と
なり、新幹線がこれほど快適な乗り物かとい
うのをここで痛感しました。皆さん、旅行に行く
時は新幹線で行きましょう。この年もただただ
楽しい委員会だったなというのが思い出です。小
西委員長ありがとうございます。

その翌年、まちの未来創造委員会。委員長が
村上直弘君、副委員長が加藤雄大君でした。こ
こですこいと思ったのが、当時ブロックアカデミー
を尾道で主管することになり、とにかく加藤雄
大君と小林暢玄君という男たちが出来過ぎて、
「こんなことができる人間がおるんかな」というぐ
らいの印象を持っています。ただ私たちはそこに
付いていく、ただすこいなと思いが、1年間
過ごしたというのが思い出ですかね。

そしてこの年の夏期講習が終わった後の理事
選挙。私は仕事と、家庭的にも父親がこの時に
大病をしまして、「理事を受けないか？」という
話もあったのですが、「いや、ちょっと難しいです」
といった感じで断っていました。ただ理事選挙で
当選しまして、当時の吉田理事長予定者に呼ば
れて、「頼むけん理事してみんか？」ということ
を言われました。その時に今でも心に残る言葉
があるのですが、「ほんまに得るものあるけえ、
やってみん？」ということ、最初すこく断ってい
たのですが、結局は「やります」という回答をし
ました。私の中で、どういう決断だったかとい
うと、「どうせやるんだつたら理事長を担いでやり
切つてやるよ」という想いで受けたんですね。そ
の時にそういう風に声をかけてくれた吉田理
事長には本当に感謝しかありません。あの時はあ
りがとうございました。

委員長時代が私のクライマックスになるので
すが、同期の委員長にもすこく恵まれて、毎日のよ
うに、ああだこうだ、とみんなで言っていました。

副委員長は沼田君でした。今まであまりしゃ
べたことが無かったので、始まる前に飲みに行っ
た時、沼田副委員長が「委員長と副委員長と
いうのは一枚岩じゃけ心配すんな。」と。めっちゃ
心強いなとその時思ったのですが、わずか2ヶ
月後、電話するじゃないですか。通じないんです
ね。あれだけ一枚岩って言ったのがどこ行ったん
じやろうな。これはちょっとまずいと思ったので
すが、この沼田君のすこいところは、やっぱり直前
になつたらすこく力貸してくれて、沼田君で本
当に良かったなって思っています。ありがとうございます。

委員会メンバーに雄大君がいたので、もうこい
つを頼るしかないと思いました。「ちょっと議案
の書き方よくわからん」という感じで、本当に
毎晩のように連絡していました。毎晩2、3時
間連絡して、その節は雄大君ありがとうございます
ございました。でもやっぱり何がすこかったかとい
うと、当時副理事長だった岡本大輔君です。私
が所信を書く時に結構適当にビツと出したんで
す。そうしたら、岡本大輔君が「所信っていうの
は迷ったときに立ち返る場所じゃけ、真剣に考
えた方が良い」と。それで私は理事長の所信を
本当に100回ぐらい読みましたし、副理事長
の所信も100回ぐらい読んで、本当に1ヶ月
ぐらい掛けて自分の所信を書き上げました。今
振り返ってみると、本当に良いことを言ってくれ
たなと思います。ありがとうございます。

事業をする前に自分の父親が生きるか死ぬ
かという手術をしないといけない状況で、事業
の2日前が手術日だったかと思えます。そうし
たら、当時副理事長だった岡本大輔君や沼田君
が「任せとけ、そっち行つた良いよ」と優しく声
を掛けてくださり、でも私もここまでやったの
で、何とかして事業に出たいということで、無理
矢理やり切りました。こですこくいろんな人
に助けられ感謝しかありません。一番最後に何
が感動したかという、参加してくれた保護者
のお母さんが寄ってきて、涙ながらに「本当に
うちの子どもがこんなに嬉しそう顔をしている
のを初めて見ました」と言ってくれて、私も涙を

我慢しきれなくて泣きました。とにかく自分の
事業をして、すこくためになったな。というのが
この年です。

原田君と西垣内君の幹事2人もすこく頑
張ってくれました。来年2人も理事をされる
ということ、すこい嬉しく思っています。来年
2人も頑張ってください。

みなさん、おそらくその時々で「理事やってみ
ないか」とか「この役やってみないか」とお誘いが
あると思います。私が言うのも何なんです、
せつかくお金も時間も使って尾道青年会議所
というところに属しているのであれば、失敗して
も良いので、全力でチャレンジしてほしいな、とい
うのが私の想いです。また、役を受けたのであれ
ば、全力でやってみてほしいです。誰かに無理矢
理やらされたから嫌々やるとかではなく、最終
的にやると決めたのは自分自身なので、やると
決めたのであれば、失敗しようが何をしようが、
「もう無理」というくらい、頑張つてほしいなと
思います。

これは吉田理事長の受け売りですが、役を
やつたら絶対に得るものがあるので、みんなも頑
張ってください。

最後に今年の向井委員長の下で副委員長と
いう立場をさせてもらっているのですが、とにか
くこの男も出来過ぎて、何も言うことが無いで
すね。ただただ予定者として楽しませてもらっ
ていますが、唯「ちょっと苦手だな」という部分は、
委員会メンバーを巻き込んで何かをするという
点です。自分が出来てしまうので誰かを巻き込
んでやるのを苦手にしているから、大変だと思
いますが、もうちょっと委員会メンバー全員を巻
き込んで頑張つて欲しいなと思います。

私がこの7年間で学んだ事は、人へ対しての
感謝、信頼関係、そして情熱と決断力というこ
の4つです。感謝と信頼関係というのは当たり
前でも誰かが分かって思いますが、この情熱って何
なのか。この尾道青年会議所が60数年続いてい
るといのは、今までの先輩方が真剣に取り組
んできた想いが乗って、ずっと継続されているか

らこそ、今もなお廃れることなく存続しているのだと私は思います。

1年で良いので、みんな本気でやってほしいです。「理事をしろ」とか「何かしろ」と言う訳ではなく、1年。自分はこれ以上無理というくらい参加してみても、とにかく全力で取り組んだら何か得るものがあるのでは、1年どこかみんな頑張つてほしいなと思います。そうすれば何か得るものがあると思います。

これからの尾道青年会議所がかついで団体であつてほしいなというのが、私からの最後の思いです。

以上で、私の卒業生スピーチと代えさせていただきます。



みなさん、こんばんは。早速ですが、JC生活を振り返つていきたいと思えます。

まず、2013年に仮入会をさせていただきました。その年は仮入会員が各委員会に配属されて委員会活動に参加させていただいていたんですが、配属されたのが教育系の委員会です。当時やっていた事業が西国寺のおおわらぞうりを作り変えて奉納するという事業でした。

JCメンバーでおおわらぞうりを作成して西国寺に奉納したときにJCで初めて感動を体験し、素晴らしい団体なんだと実感したのを記憶しています。

次は幹事の年で教育系の委員会でした。この年はよく遊んだ経験が残っています。委員会が終わった後にアフターに行つて、当時の委員長に遅くまで楽しませていただいた年だと記憶しています。JCの楽しい部分をこの年に実感したように記憶しています。

翌年も教育系の委員会配属で、この年は耕作放棄地を無くそうという事業で、耕作放棄地で草を刈つて、バイヤを植えて毎週、蚊に刺されながら水やりに行つた記憶が残っています。事

業の結果、その土地は耕作放棄地ではなく、立派なバイヤが育つて、楽しかったです。いろんなJCの事業があるんだと感じた年でもありました。

次の年はセクレタリーということで、平岡セクと日暮セクと3人体制でやらせていただきました。私は主に資料作成担当でしたが、それ以外の事務局長の仕事もたくさん任せていただいて、とても忙しかった1年でしたが、その時の経験が私を人間的にも成長させてくれたと思います。また、同じ年に平岡さんと日暮さんと一緒にセクが出来て本当に良かったと思います。平岡セクは理事長のアテンドを完璧にこなしてくれるし、日暮セクは事務処理を助けてくれましたし、とても助かりました。その節は本当にありがとうございました。

次の年は60周年の委員長です。この年は大変だった記憶がとても多いです。60周年の記念式典で対外LOMの方や尾道のOBや外部参加者と呼んで開催して、とにかく失敗したらいけないというプレッシャーが大きくて、周りに迷惑もたくさんかけたし、いろんな人とぶつかった年でもありました。ただ、JCに入っていないけれどもここまで経験は出来なかったと思うので、本当に良かったと思っています。

その年は中島君と加藤雄大君が幹事明けの2年目の年で、ものすごく動いてもらって本当にありがたいとございました。お二人の協力が無ければ1年を乗り切れなかったと思います。

次の年はプロアーで拡大委員会に配属されました。この年は何のプレッシャーもなく、一番、楽しく気楽に活動できた1年だったと思います。委員会での思い出もたくさんありますが、この年は日本JCに出向させていただいた年でもあるので、そちらのお話をさせていただきます。

そもそも日本JCの委員会にまったく参加できてなかったんですが、配属先の委員長がわざわざ尾道まで来て、委員会に出席してくれないか？とお願ひにきたので、千葉県で委員会がある時に参加をさせていただきました。いざ委

員会に参加すると、通常の委員会なんです。JCイクリードの唱和から始まったので、違和感を感じたのを覚えています。地域や組織が違えばやり方も違うんだと感じた年です。

次の年は初めての副委員長です。大本委員長の下の馬車馬のごとくJC活動をさせていただいた年です。寺でフェスをしようということで、埼玉まで寺フェスを実施していたお寺さんに話しを聞きに行つたり、とにかく1年中、寺のことを考えていた記憶があります。初めての副委員長という役職で難しいことも多かったですが、委員長を支えながら新しい経験値をたくさん積めた年でもありました。

次の年は専務です。この年はコロナが始まった年で本当に舵取りが難しかったという記憶が残つて、大変な思い出ばかりが残っています。大変な思い出を除けば本当に楽しい1年でした。事務局メンバー全員で行つた京都会議から始まつて、事務局旅行も副理事長と全員で行きましたし、今も現役で活躍している藤田君と吉田嵩正君もセクとして、すごく助けてくれてありがとうございました。

次の年はビジョン系の委員会配属でした。コロナ真っただ中だったので難しい1年でしたが、子供向けにユートバー体験事業だったり、商工会議所の屋上で光るバルーンを上げて尾道を元氣付けるという事業を実施したり、委員長の熱い想いを事業で具現化していた年だったということも覚えてます。

次の年は副理事長ということで、2委員会を持たせていただき、半田委員長と沼尾委員長と過ごした年でした。半田委員長は何も言わなくてもどんどんやってくれると出来る委員長でしたが、もう一人の沼尾委員長は少し苦労した記憶が残ります。ただ、沼尾委員長は拡大に対する意欲は誰にも負けないくらい強くしつ

かり信念を持っていて、素晴らしい一面も見れたので良かったです。半田委員長、沼尾委員長、本当にありがとうございました。次の年は、地区コン委員会ということで、安保

君、大変、お世話になりました。安保君の真面目さと誠実さを実感できた年でした。地区コンの実施ということでも事業も大変だったと思いますし、安保君に少しきついことを言うこともありました。話しきれないくらいの思い出がある。そして今年是最終年ということで、岡村委員会に配属させていただきました。9月例会でキヤッチコピーに焦点を当てて実施しましたが、この委員会では言葉の持つ素晴らしさだったり、言葉の持つ力、言葉の美しさを実感できた1年で、本当に素晴らしいワードが生まれた年でした。飲み会をする度に美しいパワーワードが出来て、何度、腹を抱えて笑わせてもらったか分かりません。本当にありがとうございました。特に幹事の3人には本当に良くしてもらつて、感謝しかありません。最後までよろしくお願ひします。

そろそろ、時間も迫ってきたので終わりにしたいと思いますが、JCは大人の学び舎という話しを聞いたことがあります。本当にいろいろと勉強になることばかりだったJC生活でした。いろんな役職やいろんな立場が体験できる団体なので、積極的にチャレンジすれば、得られる経験値はとて多いと実感しています。無理のない範囲でいろんな役職に挑戦していただければと思います。

最後に尊敬する先輩に教わつたことをお伝えして終わりたいと思います。素晴らしい結果を出すには人に信用されることが大切だと教わりました。人に信用されるようになるには、仕事が出来るとか頭が賢いかあると思います。が、たつた3つの簡単なことをすればいいんです。「時間を守ること」「約束を守ること」「受けた恩を忘れないこと」

仕事ができなくても、頭が良くななくてもこの3つをしっかりやれば、JCでも会社でも地域でも素晴らしい結果が出せると思いますので、こちらの言葉をお送りして、卒業生スピーチに代えさせていただきます。つたない話となりましたが、本日はありがとうございました。

次は幹事の年で教育系の委員会でした。この年はよく遊んだ経験が残っています。委員会が終わった後にアフターに行つて、当時の委員長に遅くまで楽しませていただいた年だと記憶しています。JCの楽しい部分をこの年に実感したように記憶しています。